月報
岡崎の教育
平成18年11月1日
11月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知県立岩津高等学校長　都築　春彦氏
この人に聞く …… 2
「明日の風文芸賞　岡崎」代表　栗木　宏美氏
羅針盤 …… 2
音楽科指導員　三浦　敦子
ふれあい …… 3
生平小　市川　江梨
東海中　畔柳　英徳
特集 …… 4
伝統を守り　伝統を伝える
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
開校百周年記念式典（昭和48年）
この本を …… 8

教育随想

Learning to live together with others

－自分以外の人と共に生きることを学ぶ－

愛知県立岩津高等学校長
都築　春彦　氏

ユネスコの「21世紀の教育国際委員会」が生涯学習のために挙げた四本柱の一つに、"Learning to live together with others"というものがあります。この「自分以外の人たちと共に生きる」ためには、周囲の人への心配りが大切です。

昔、江戸の町民は相手を思いやる「江戸しぐさ」という文化を生み出しました。例えば、狭い通りでお互いがぶつからないように、擦れ違いざまに肩を反対側に引き合う「肩ひき」とか、混雑している渡し船に乗ったとき、座っている人は順番に腰を浮かし、こぶし一個分詰めてなんとか一人分の席を空け、譲り合うという「こぶし浮かせ」などです。「こぶし浮かせ」は最近の電車内では、めったに見かけなくなってしまったことです。

もう一つ、「江戸しぐさ」として語り伝えられているものを紹介しておきます。「三つ心、六つしつけ、九つ言葉、十二文（ふみ）、十五理（ことわり）で末（すえ）決まる」というものです。

三歳までに素直な心を、六歳までにしつけをし、九歳であいさつをはじめとした言葉遣いを覚えさせ、十二歳で文章が書けるようにさせ、十五歳ではものの道理がわかるようにしなければならないという意味です。そうなれば、狭い江戸の町でも、皆互いに居心地よく暮らすことができます。

この教えは、子供たちの規範意識の低下や人間関係の希薄化が進んだ現代にこそ必要な教育論だと思います。そして、私たちの学校がこのようなさりげない優しさ、自然な気配りの息づく場、"Learning to live together with others"の場でありたいと願っています。

（つづき　はるひこ）

文芸で本当のバリアフリーを

「明日の風文芸賞　岡崎」代表
栗木　宏美　氏

「筋ジストロフィーに冒された少年が主人公である、『明日の風に向かって』というアニメ映画の上映会を開いたんです。それが思わぬ大盛況で、ほんの少しだけ黒字になったんです。その黒字をどうしようということになってね。私は書くことが好きで、書くことでみんなに力を与えられないかなっていう思いから始まったんです。」

「明日の風文芸賞　岡崎」が始まったきっかけを、懐かしむように話してくださった栗木さん。脳性小児麻痺のため四肢と言語に障害のある栗木さんが、書くことが好きになったのは、お母さんの影響による。

「指先の訓練のため、幼稚園のころから母親に日記をつけさせられました。それがきっかけでエッセイや詩を創るようになり、書くことで自分の気持ちが相手に伝わることが分かったんです。文章の力ってすごいなと思ったんです。」

第一回の文芸賞は昨年度、そして第二回の今回は、前回を五〇〇人余りも上回る一四三九人、二五三四点もの応募があったそうだ。この文芸賞を立ち上げるまでの苦労について、次のように語られた。

「初めは、『障害者の団体なら援助してもいいけど』などと言われ、悔しい思いをしたこともありました。『障害があるから』と、特別視されるのがつらかったです。でも、それがなにくそと思う私の力にもなっているのです。人間って弱いところがあるけれど、弱いところをバネにして強くなってほしいというのが、私の伝えたいことなんです。」

この障害のおかげで、苦しい人達の気持ちもわかる。
多くの素敵な人達との出会いもあった。
人に感謝する気持ちも持てた。
そう思うと、とても気が楽になった。

子育ても一段落してきた。
また新しい事に挑戦してみようかな、と夢を膨らませている。

これは、障害や多くの苦労を乗り越え、明るく前向きに生きる栗木さんが、以前作った『雑草のごとく』という作品の一部である。

栗木さんは、今後の夢について、「年齢とか、障害とか、すべての枠を超えた、本当の意味でのバリアフリーを文芸の世界で創っていけたらいいなあと思うんです。将来はこの文芸賞を全国に発信し、全国から応募してもらうコンクールにしていきたいですね」と語る。

明日の風は、栗木さんの元気に押されて、未来へ向かって吹き始めたようだ。

（氏　名　くりき　ひろみ
生年月日　昭和三十三年五月三十一日
住　所　本宿町棚田一―八十二）

子供の思いを引き出す音楽の授業

音楽科指導員　**三浦　敦子**

「さあ、まずリズムを打つ練習をしようね。手が楽器だよ」というA先生の言葉に、「ぼくの手って楽器だったっけ」と子供たち。「そうだよ、手も楽器になるんだよ。大事にたたこうね」と、先生と子供たちとの温かい会話で授業が始まる。本時は、「きらきらぼし」の情景を思い浮かべ、自作の楽器で曲に合った演奏を工夫する小学校一年の授業である。

「音が出ないように、そっと自分の楽器を机の上に出してね。」

いよいよ子供たちが工夫して作った楽器の出番。早く鳴らしたい子供たちだが、音を大事にさせたい、音に関心を持たせたい、という先生の思いがこの言葉の中に感じられた。

「さあ、みんなの作った楽器で星の様子を表してみよう」とひと声かけると多くの手が挙がり、瓶やペッ

つながり

生平小　市川　江梨

「先生、これ見て。」

六年生の子が指さしたフィールドスコープをのぞくと、今までに見たこともないコバルトブルーの美しい鳥が映っていた。カワセミという名前だと、子供たちが教えてくれた。

本校では、長年にわたって愛鳥活動を続けており、六年生ともなると、ほとんどの鳥の声を聞き分けることができる。昨年、本校に赴任した私にとって、探鳥というのは未知の世界だった。そんな私は、鳥を見つけても子供たちに、「あれは何という鳥だった」と聞くばかり。

三月になり、「先生も一年たったから、だいぶ分かったでしょ」と言われたが、私はまだ一年生レベル。これではいけないと、猛勉強を決意した。探鳥会に参加したり、珍しい鳥が見られるという場所に出かけたりした。何とか子供たちに追いつこうとする中で、だんだん楽しんでいる自分を発見した。「先生これ、生平八幡宮のアオバズクだよね」「四回通ってやっと撮ったんだよ」と、今では、鳥の写真を保健室に飾り、子供と鳥についての会話が楽しめるようになった。

これからも子供たちとのつながりを大事にし、楽しみながら学んでいけたらと思う。

生徒とともに

東海中　畔柳　英徳

全く水泳に携わったことのない私が水泳部の顧問になった。近くにスイミングスクールがないこともあって、授業以外で水泳経験の少ない部員が多い。しかし、少しでもタイムを縮めたいという願いを持って練習に取り組んでいる。

「先生、僕の泳ぎはどうですか。」

五十メートル泳ぐのがやっとの生徒が私に質問する。しかし、その質問に即答できない無知な自分が情けなかった。

そこで必死に指導力を高める努力をした。合同練習会の際には、他校の先生に進んで声をかけて練習方法を教わった。また、水泳の指導書やインターネットを用いて泳ぎ方を調べた。そこで得た知識を練習に取り入れ、好タイムが出ればともに喜び、伸びないときは何が良くないのか一緒になって考えた。生徒と二人三脚で行う部活動、ふれあいの中で自分も成長したような気がする。

「先生の言うことを聞いていれば間違いないから……。」

三年生が最後に後輩にこう伝えて部活を引退した。この言葉が嘘（うそ）になることのないように、これからも生徒とともに頑張っていこうと思う。

トボトルにビーズや砂を入れた楽器を鳴らす。聴いている子供たちも星を想像し、音の変化を感じようと真剣である。中身の違う二つの自作楽器を縦に振ったり、横に振ったりして発表した子の演奏に、「鳴らし方によって夜の空が変わったよ」という意見が出てきた。

先生は次に、「今度はきらきらぼしの歌に合わせて、自分が思い浮かべたお空を楽器で鳴らしてみてね」と指示。それぞれが描いたイメージカードを出し、きらきらぼしの伴奏に合わせて自作楽器を鳴らす。効果音としての音色から、リズムを意識し、音楽的な楽器演奏にしていこうという先生の意図が感じられた。

メロディーが流れると自然とリズムがはっきりしてくる。伴奏に合わせてリズム打ちを工夫した子は、「寝ていたお星様が、起き上がって踊ってるんだ」と、リズム打ちと効果音を混ぜて演奏した。楽器の使い方を工夫し、音の違いに気づかせ、音楽に沿ったリズム打ちや音色を作ることで、それぞれが思い描いた夜空の様子を演奏することができた。

体でリズムを感じ、流れる音に関心を持たせ、耳を育てることが表現力につながる。思いを音楽で表現できる子を育てる授業を目指したい。

伝統を守り 伝統を伝える

▲ 職人の手によって見事に穴太積みされた味噌桶

岡崎を舞台としたＮＨＫ連続テレビ小説『純情きらり』の放映が、九月末で終了した。万博の開催や番組放映により、八丁味噌が脚光を浴び、岡崎公園の観光売店では、土産物の売り上げが好調である。また、味噌工場には一か月あたり二万人以上の見学者が訪れ、放映前の二倍以上の人出となっている。

全国で生産されている味噌の八十パーセントは米味噌だが、八丁味噌は、大豆と塩と水のみを原料とした豆味噌である。二夏を越し、じっくりねかせるため、他の味噌に比べて色は黒く、水分が少ない。また、タンパク質や脂質に富み、独特の風味がある。外国では、有機大豆を使用した「オーガニック八丁」が健康食品として好まれ、多くの国に輸出されている。

八帖町にある老舗の味噌工場には、石を穴太積みにした杉桶が、ぎっしりと並んでいる。蔵の柱や壁、桶についた菌によって伝統の味が育まれるため、傷んだ蔵や桶は、少しずつ補修を重ね、使い続けられている。戦時統制や空襲、戦後の原料不足などの危機を乗り越え、六百年以上も続く伝統的な製法と味をしっかりと守り続けている。

八丁味噌を使った新しい商品も様々なところで開発されている。せんべい、ソフトクリーム、ビールなど、市販されている物も多い。また、学校給食や研修、授業等でも、郷土の味に親しみ、学ぶ機会が増えている。

岡崎が誇る八丁味噌は、伝統を守りつつ、新しい魅力を加えながら、全国各地、世界各国で食されている名産品である。

▲ 八丁味噌カクキュー

▲ まるや八丁味噌

守る

▲ 石積み作業

▼ 赤だし八丁の袋詰め

▲ 補修を重ねて使っている味噌蔵

▼ 代々味を受け継いできた桶

伝える

▲「純情きらり」記念献立（額田中）

▼ 八丁味噌を使った土産物

《献立》
・八丁味噌カレー煮
・桜子ご飯
・おからハンバーグのたまりしょうゆかけ

▲ 工場での味噌作り体験（連尺小）

▼ 味噌作りの研修（藤川小）

岡崎市教育委員

委員長　大原　憲一（前列 左）
同職務代理者　寺部　曉（前列 右）
委　員　畔柳美奈子（後列 左）
委　員　平野　有行（後列 右）
教育長　藤井　孝弘（後列 中央）

委員長の任期
平成十八年十月五日より一年間

● 教育最新情報

○平成十七年度教育活動診断票の活用状況

特色ある学校づくり委員会は、平成十五年度より児童生徒・保護者用を、平成十六年度より教職員用の教育活動診断票を提案し、学校評価において実施するように呼びかけてきた。

昨年度の教育活動診断票の実施状況について、市内の全小中学校に調査し、六十九校から回答を得たので、その結果の一部を紹介する。

①実施状況

・児童生徒……　六十九校
・保護者……　六十八校
・教職員……　六十九校

教育活動診断票の利用については、回答のあった全校が実施しており、定着してきた。

②実施時期

・三学期……　九十一％
・二学期……　四％
・一学期……　一％
・その他……　四％

前回と比べて「一学期」「二学期」が減り、ほとんどの学校で「三学期」に実施された。

③実施対象者

・児童生徒用…全校児童生徒の実施は四十八％
・保護者用…全校の保護者の実施は七十七％
・教職員用…全教職員の実施は九十％

保護者対象に実施した学校が増え、児童生徒への実施が減少した。これは、低学年の実施には無理があると判断した学校が増えたためである。

④保護者等へ公表した学校

・児童生徒用……　八十二％
・保護者用……　九十五％
・教職員用……　五十六％

説明責任が求められている現在、保護者や児童生徒用の調査結果の公表を積極的に実施したい。今回の結果の公表については、「学年（校長）だより」が八割を越えている。

⑤診断結果の分析・検討

・職員会議等…　六十三％
・管理職……　二十七％
・運営委員会等……　八％
・その他……　二％

職員会議等の場で、全教職員が分析・検討し、次年度に向けて個々の教育目標を立案することが重要である。

その中で、今年度四月に文部科学省より「学校評価ガイドライン」が発行され、外部評価の定義が新しく示された。今まで外部評価は、保護者を中心に実施していたが、本年度から、外部評価委員会による評価の必要性が述べられている。

開かれた学校、信頼される学校経営を推進するために、適正な評価と評価結果の公表が必要である。

● ハートピアだより

成就感
―草取りを終えて―

今年の夏休みは建物の塗装工事が二か所行われた。講堂の内外の塗装と、所長室の外壁修復である。見違えるほどきれいになったのを見て、何かうれしさが込み上げてきた。

講堂の工事は炎天下で毎日が最高気温三十五度を超える中、職人さんが黙々と刷毛（はけ）を動かしていた。「暑くて大変ですね」と言うと、「もう四十年もこの仕事をやっています。なんてことはありません」と笑顔が返ってきた。また、技術・家庭科の先生たちは、学習指導や部活動指導の合間を縫って駆けつけてくださった。「ごくろうさま。ありがとう」の言葉に、すばらしい笑顔が返ってきた。先輩の先生が刷毛の使い方などを会話の中でさらりと教えているほほえましい場面もあった。

プロとボランティアの違いはあっても、作業を通して伝

●表　彰

◆第七回全国小中学校空手道選手権大会
優勝　常磐南小四年　柴田苑佳

◆第九回全日本小学生新相撲大会
準優勝　根石小六年　加古若菜

◆全国自作視聴覚教材コンクール
※全て市自作教材制作委員会
●文部科学大臣賞
「矢師―新たな時代を生き抜く職人の姿―」（ビデオ中三・社会）
●入　選（三番目の賞）
・「変わりゆく矢作川」（ビデオ）
・「繊維の町岡崎のほこりを守る」（コンピュータソフト）
・「ご要望の音に」（ビデオ）

◆県学校関係緑化コンクール
●学校環境緑化の部
特選（県知事賞）小豆坂小学校
●学校林活動の部
特選（県知事賞）秦梨小学校

◆第二十七回ジュニアオリンピック陸上競技大会　愛知県大会
優勝　女子走り高跳び
岩津中　三年　中嶋文望

◆第三回愛知レディース陸上大会
●女子砲丸投げ
優勝　六ツ美中三年　安田糸穂
準優勝　同　三年　大田聖子

◆県ジュニアアーチェリー大会
●中学生男子の部
優勝　東海中三年　坂野雄太
●中学生女子の部
優勝　東海中三年　鈴木由利佳

◆第九回県小学校バンドフェスティバル
特別賞　竜美丘小学校

◆第39回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位	3位
陸上競技	男	南	甲山	竜海	—
	女	竜南	六ツ美	南	—
バスケットボール	男	矢作北	六ツ美北	甲山	北
	女	六ツ美北	竜海	南	東海
バレーボール	男	竜海	矢作	六ツ美	竜南
	女	福岡	額田	竜海	六ツ美北
ソフトテニス	男	新香山	六ツ美北	福岡	甲山
	女	福岡	北	竜海	矢作北
卓球	男	矢作	矢作北	岩津	甲山
	女	岩津	北	竜海	六ツ美北
体操	女	東海	矢作北	南	—
新体操	女	東海	南	矢作北	—
剣道	男	竜海	矢作北	東海	額田
	女	額田	南	矢作北	竜南
ハンドボール	男	竜南	葵	美川	—
	女	美川	竜南	六ツ美北	—
軟式野球	男	矢作	美川	六ツ美北	北
ソフトボール	女	北	甲山	城北	南
柔道	男	矢作北	甲山	竜南	矢作
	女	六ツ美北	甲山	矢作	—
サッカー	男	竜南	南	北	竜海
水泳	男	矢作北	葵	竜海	—
	女	矢作北	甲山	竜海	—

●水泳競技の部

★印は大会新記録

種目	男子 氏名	男子 校名	男子 記録	女子 氏名	女子 校名	女子 記録
50m自由形	大久保宅登	矢作北	★ 26"67	宮地ひかる	甲山	30"37
100m自由形	横山　昂暢	竜南	58"98	天野　理慧	矢作北	1'05"33
200m自由形	大橋　諒輔	矢作	2'14"09	大岩　葵	葵	2'28"96
50m平泳ぎ	朝倉　大貴	葵	34"85	川波　恵子	竜海	39"12
100m平泳ぎ	渡部　剣太	矢作北	1'14"84	野沢　好	矢作北	1'24"95
50mバタフライ	石川　尚哉	矢作北	★ 29"61	山本　悠	甲山	32"56
100mバタフライ	藤井　大立	矢作	1'06"53	奥西　扶実	六ツ美北	1'18"00
50m背泳ぎ	西尾　次郎	城北	32"38	中嶋　友美	矢作北	34"46
100m背泳ぎ	石井　一気	矢作北	1'06"57	鈴木　美和	城北	1'20"91
200m個人メドレー	稲吉　風汰	美川	2'33"14	藤原　英子	矢作	2'41"98
400mリレー	大久保・荒井 石川・石井	矢作北	4'07"63	野沢・中嶋 松山・天野	矢作北	4'30"88
400mメドレーリレー	石井・渡部 石川・大久保	矢作北	★ 4'25"61	天野・中嶋 野沢・大角	矢作北	5'07"41
総合	優勝	2位	3位	優勝	2位	3位
	矢作北	葵	竜海	矢作北	甲山	竜海

●陸上競技の部

★印は大会新記録

	種目	氏名	校名	記録
男子	100m	伊井　京平	竜南	11"9
	200m	長坂　俊希	甲山	24"4
	400m	高田　慎吾	矢作	57"1
	800m	浜口　修平	葵	2'06"3
	1年1500m	山本　雅人	六ツ美北	4'48"2
	3000m	成田　和哉	甲山	9'33"2
	110mH	天野　涼太	南	16"8
	400mR	山本・伊井 鈴木・軒村	竜南	★ 47"9
	走り幅跳び	尾崎　裕一	南	6m16
	走り高跳び	塩瀬　智之	六ツ美北	1m60
	砲丸投げ	山崎　克真	六ツ美	9m52
	棒高跳び	長坂　俊希	甲山	2m90
女子	100m	山口明日香	北	13"3
	200m	中澤　菜美	甲山	28"0
	800m	近藤　華菜	甲山	★2'26"9
	1年800m	室永真理子	六ツ美	2'28"8
	1500m	鈴木　萌未	矢作	4'49"4
	100mH	北川　詩織	六ツ美北	16"4
	400mR	谷澤・久嶋 安田・西田	竜南	53"6
	走り幅跳び	伊藤　友希	六ツ美	4m76
	走り高跳び	東山　沙樹	竜南	1m45
	砲丸投げ	高橋　奈美	六ツ美	10m66

●体操競技

女子	氏名	校名
個人総合	浅井　怜奈	東海

●弓　道

	氏名	校名
男子	石原　達彦	額田

●柔　道

男子	氏名	校名
軽量級	中村　啓太	六ツ美北
軽中級	本田　卓也	矢作北
中量級	堀江　悟司	矢作北
重量級	深川　直矢	北

女子	氏名	校名
軽量級	稲垣　沙織	甲山
軽中級	加納菜々子	六ツ美北
中量級	石川　夏生	六ツ美北

わってくる心の温かさは同じものであった。

二学期はそんな環境の中で始まったが、運動場は雑草で覆われていた。夏休みの職員作業ではとうてい追いつくものではなかったので、子供たちの力を借りて抜き始めた。

雑草は雨の後でおもしろいほど抜けるため、子供たちは、額に汗しながら黙々と抜いていた。予定のところを抜き終えて、子供ときれいになった後を見た。「ごくろうさま、きれいになったね」と言うと、成就感に満たされた子供のすばらしい顔があった。このことをこれからの生活の中で、ぜひ生かしていきたい。

▲ 草取りに励む子供たち

フォトヒストリー 岡崎の教育

開校百周年記念式典
（昭和48年）

写真提供：矢作北小学校

昭和四十八年十一月二十五日、本校では開校百周年記念式典、記念鼓笛パレードが開催された。鼓笛パレードは、百周年にちなみ、百人の鼓笛隊を組んで学区内をパレードしたそうである。学校沿革史には、「明治六年七月、森越村長寿寺を仮校舎として創立」とある。

現在、開校百三十二年目を迎える。この写真の校舎は、本校初の鉄筋校舎で、今も五、六年生の教室として児童とともにある。

周年行事は、今でも各校で様々な形で行われている。来年度は、多くの中学校が六十周年を迎える。

・カット　竜南中　中根勅子

オシアス

オシムジャパンのアジアカップ最終予選が続いている。以前、オシム監督が言った、「終わったことは変えられないが、未来は変えられる。自分たちのプレーに責任を持たなくてはいけない」という言葉が心に残る。我々教師もこの姿勢を忘れず、日々子供たちと接していきたい。

「純情きらり」の放映によって、八丁味噌の需要が増え、味噌工場では生産が追いつかないそうだ。

「長く愛用されることが大切なんです。」

時代の変化に屈せず、六百年以上も変わらぬ味を守り、提供し続けている自信と誇り。言葉の一つ一つが、心に重く響いた。

朝の静けさを打ち破るような元気なあいさつで出発する六年生。小学校の修学旅行も、体験学習や班別行動など、新たな試みが行われるようになったと聞く。大きなバッグにお土産と思い出をいっぱい詰め込んで帰ってきたとき、また一回り成長した姿を見せてくれるだろう。

昴が宵の東の空に美しく輝く季節となった。世界中で多くのニックネームを持つこの星団は日本人にも親しみ深く、古くは枕草子にも「星は昴」と記されている。また星がいくつ見えるかで視力のよさもわかる。空気の澄むこの季節、夜空の星を眺める心のゆとりを持ちたい。

この本を

＊心を鍛える言葉　白石　豊
生活人新書　￥680

＊信長とは何か　小島　道裕
講談社　￥1500

＊晩夏　阪井　洋一
文芸社　￥1800

＊教育格差　和田　秀樹
ＰＨＰ研究所　￥1200

＊定ときみ江　段　勲
九天社　￥1800

本著は，ハンセン病に苦しむ定夫婦の生涯を綴ったものである。

顔や手足に障害があり，周囲から偏見や差別を受けながら生き続けた定ときみ江の生涯は想像を絶する厳しいものであり，それに立ち向かう夫婦の生き様は感動を呼ぶ。また，きみ江は大変な努力を重ねて裁縫や自転車，パソコンを習得するのである。これは，きみ江の母親の厳しいしつけの賜物とも言えるもので，子育てとは何かを改めて考えさせてくれる一冊である。